

## ハエも悲しき

やれ打つな 蠅が手をする 足をする

これは、小林一茶の有名な句ですね。

とかくハエは、人間の目に留まると、汚らしいとか不潔とかいわれ、ハエ叩きで叩かれたりしていますが、そんなハエでも、必死に手を摺り、足を摺って命乞いをしている様を見ると、そりゃ誰でも可哀想になってくる。だから、皆の衆見逃してくれ、というところでしょうか。

いつも我が物顔で飛び回っているように見えても、それは人間様の勝手な見方で、ハエの身としては生きるのに精一杯なんです。だから、ストレスだって溜まるはずです。

先日、雌にふられた（交尾を拒否された）ショウジョウバエの雄は、雌と交尾できた雄よりアルコール入りの餌を好んで酔っぱらうことが米カリフォルニア大学の研究チームの実験で分かったそうです（3月21日付道新）。

雌にふられた雄のハエがカウンターに寄りかかってやけ酒を飲んでいる姿はとても想像できませんが、もてない奴はどこの世界でも切ないものだと、親近感を感じます。

ウルリケ・ヘーベルライン教授率いるチームによると、ふられた雄を雌と隔離して、15%のアルコールを含む餌と通常の餌の2種類を選べるように容器に入れたところ、ふられた雄はアルコール入りの餌の方を選び続けたということです。

神経伝達物質に「ニューロペプチドF」というのがあるのだそうですが、ふられた雄のグループと交尾できた雄のグループについて、「ニューロペプチドF」の量を調べたところ、ふられた雄にはその量がすくなく、交尾できた雄には多かったとのこと。

ふられた雄は、「ニューロペプチドF」の減少分をアルコールの摂取により埋め合わせようとしている、と考えられているようです。

また、実験では、交尾できた雄についても、「ニューロペプチドF」を減らすとアルコール入りの餌を好んで食べるようになるそうで、「ニューロペプチドF」とアルコールへの衝動との関連が深いことが伺われます。

もっとも、悲しいといっちは飲み、悔しいといっちは飲み、はたまた嬉しいといっちは飲むという方は、果たしてこの理論に合うのでしょうか？ ちょっと疑問なのですが。

脳の働きにより「ニューロペプチドF」の量が増減し、それによって酒を飲みたくなったり、その気がなくなったりするということであれば、今後、アルコール依存症の仕組みの解明にも繋がる可能性があり、研究成果が期待されています。（塾頭 吉田 洋一）